



よすみちゃん

弥生の出雲王に出会える

季刊

第44号

(2022年1月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★春季企画展

「てんじんムラの歴史

—天神遺跡と周辺の調査から—

3月5日(土)～5月30日(月)

天神遺跡は、出雲市天神町を中心に広がる遺跡です。この遺跡は出雲平野の主要な集落跡の一つで、弥生時代から近代に至る遺構・遺物が見つかっています。初めての発掘調査は、およそ50年前の1971年にはじまり、翌年に報告書が刊行されました。その後2000年まで12回にわたり、出雲市による断続的な調査が行われました。

今回の展示では、天神遺跡のほか、周辺の海上遺跡や高西遺跡などを「てんじんムラ」としてまとめ、これまでの調査の成果をふまえて、一带に人びとの生活が営まれた背景を考えます。(高橋 周)



第1次調査(1971年)の様子
(現在の高西公園
(塩冶有原町)付近)

★日本博 in 出雲

「出雲まるごと博物館」

好評開催中～2月28日(月)

出雲市では、文化庁が推進する「日本博」関連プロジェクトとして「神々の集う国『出雲』体験フェスタ×日本博 in 出雲」と銘打った事業を昨年度から実施しており、古代出雲大社高層神殿VR／AR体験アプリなどを制作・公開したところです。

今年度も引き続き出雲神楽の公演などを行うほか、当市を観光に訪れた方々の市内周遊を促進する「出雲まるごと博物館」もあわせて実施いたします。

市内には博物館などの展示施設が数多くあり、出雲の様々な魅力を情報発信しています。また、その周辺にはおススメ観光スポットもたくさんあります。このように見どころ満載の出雲市を、展示施設を拠点に限らず周遊していただく取り組みがこの「出雲まるごと博物館」です。

期間中、古代出雲歴史博物館、出雲文化伝承館、平田本陣記念館、荒神谷博物館、当館の5館では、自館の魅力はもちろん、他館や周辺の見どころを紹介する共通プー

スを設置して、来館者のみなさまをお迎えしています。市内観光のサテライト施設として、これらの博物館を積極的に利用していただきたく思います。

さらに、当館では独自に「出雲の王墓を巡る」をテーマに、西谷墳墓群をはじめ、今市大念寺古墳や上塩冶築山古墳など「王墓」の現地見学をおススメしているところです。このきっかけになればと、主要古墳の石室内部を360度パノラマ撮影した画像を、タブレットを通して観察できるコンテンツも制作しました。当館で特設コーナーを設けて公開していますので、実際に手に取ってお試しください。

この機会にぜひ、当館をはじめ「出雲まるごと博物館」にご来館くださいませ。(三原 一将)



★ギャラリー展

「田儀櫻井家のたたら製鉄その2
国指定史跡 越堂たたら跡」

好評開催中！3月7日(月)

越堂たたら跡は、出雲市多伎町口田儀にある製鉄遺跡です。江戸時代に出雲で製鉄業を営んだ田儀櫻井家が、1771(明和8)年から1882(明治15)年頃まで100年以上にわたり操業しました。

2006(平成18)年に、出雲市による発掘調査がはじまり、2009(平成21)年に、国史跡の指定を受けました。その後も、2016年まで継続して調査が行われ、越堂たたらの具体的な構造が明らかとなりました。

日本では砂鉄を使った製鉄が6世紀末の古墳時代から始まりました。以降、15世紀末までの製鉄遺跡は、北は青森県、南は鹿児島県まで広い範囲でみつかっています。しかし、江戸時代まで製鉄が行われたのは、島根県を含む中国地方と、東北地方の太平洋側だけでした。

たたら製鉄とは、木炭の火力で砂鉄を溶かして鉄を取り出す、日本古来の製鉄法です。原材料の木

炭はかさばるため、陸路では運送経費がかさみます。そのため山間のたたら場では、木炭を近くの森林から調達しました。一方、田儀浦(田儀港)の近くの海辺で操業した越堂たたらでは、木炭と砂鉄を船で取り寄せた記録が残っています。1808(文化5)年の史料には、砂鉄は伯耆国(鳥取県西部)、木炭は日本海沿岸部(鰐淵寺山(出雲市別所町)〜口田儀)や隠岐から入手したと記されています。

山間部のたたら場では、近くの森林が少なくなるたびに、場所を移動する必要性がありました。しかし、海辺にあった越堂たたらでは、船を使って木炭を調達できたため、たたら場を移動する必要がありませんでした。これによって、100年以上にわたる長期の操業ができたのです。

越堂たたらで生産された鉄は、田儀浦から船を使って、大坂や北陸、九州へと運ばれて行きました。今回の展示では、田儀浦が支えた海辺のたたら、越堂たたら跡を紹介します。

(浦上晴奈)



たたら製鉄 イメージ図



発掘された越堂たたら跡

★祝「出雲日御碕灯台」
国の重要文化財指定へ！



令和3年11月19日に開催された国の文化審議会において、島根県内に所在する美保関灯台(松江市)と出雲日御碕灯台の2つの灯台を重要文化財へ指定するよう文部科学大臣に答申されました。

「技術的に優秀なもの」及び「歴史的価値の高いもの」として評価された出雲日御碕灯台は、石造としては日本一の高さを誇ります。1903(明治36)年初点灯。日本人技師が手掛けた灯台建設技術の到達点として高く評価されました。今も現役として、山陰の航路の安全・発展に寄与しています。

出雲日御碕灯台は「日本の灯台50選」などにも選ばれた日本を代表する灯台です。また、日本遺産「日が沈む聖地出雲」の構成文化財として中核的な役割を担っており、観光資源としてさらなる活用が期待されています。(吾郷 誠)

★スポット展

「徹底解明！常楽寺柿木田1号墳
— 神西湖南岸の古墳文化をさぐる —」

2月2日(水)～5月30日(月)

神西湖南岸は古墳時代前半期に多くの古墳が築かれた地域です。出雲市湖陵町に所在する常楽寺柿木田1号墳は、古墳時代前半期の前方後円墳です。古墳の全長は約35mで湖陵町内では最大級の規模を誇ります。市文化財課が令和元年度と3年度に発掘調査を実施し、古墳の墳丘の構造や埋葬施設の様子が明らかになりました。

古墳の後円部上では、箱形の木棺を納めた痕跡が残る3つの埋葬施設を確認しました。このうち西側の埋葬施設は、床面に平たい河原石を整然と敷き詰めた礫床を持つことが判明しました。河原石は8～10cm程度の大きさで、表面が滑らかな石材を選んで使用しています。礫床の北側にはひと回り大きい石材が用いられていました。この石材は被葬者の頭を置いた枕石であると考えられます。

被葬者の頭位は北西方向に向けられ、その延長線上には神西湖の原形である神門水海が広がっていました。想像を逞しくすれば、当

時の水上交通の要である神門水海周辺を治めた首長が埋葬されたのかもしれない。

常楽寺柿木田1号墳と同じ頃の神西湖南岸の古墳は、礫床を持つ埋葬施設が多く構築されます。例えば常楽寺柿木田1号墳から北に約2.5kmの距離にある山地古墳は、2つの埋葬施設で礫床が良好な状態で確認されました。

今回の展示では、こうした常楽寺柿木田1号墳の調査成果を踏まえ、周辺地域の古墳との比較をしながら神西湖南岸の古墳文化の特徴を考えます。

(幡中光輔)



常楽寺柿木田1号墳の礫床(上から)

★古文書の森をゆく⑨
「記録の中の出雲弁」

江戸時代、ある船頭が鉄の販売報告をするため北陸から出した手紙が、こう締め括られていました。

「…私の報告は右の通りですが、〴〵ござ〴〵した算用はお会いしてお話しいたしましょう」。読者の皆さんはすぐお分かりでしょうが、細かい勘定に関すること、〴〵

ざ〴〵話〴〵は持ち帰って話した様子が伺えるもので、話し言葉の出雲弁が記録の中に登場しています。また、平田の人物が書き残した日記のなかにはこんな記述が。

「只浦(出雲市美保町唯浦)で、〴〵アメエビ〴〵が大漁だと聞いたので早速100杯運ばせた」。辞書を引くと〴〵アメエビ〴〵は島根県出雲地方の方言でプランクトンの「あみ」を指し、石見地方では「あめ」と呼び習わすようです。日記の筆者は旧暦2月上旬の3日間でアメエビを235杯も調達し、管理する苗代に配布していることから、アメエビは肥料になったことが分かります。また、このとき小

伊津(出雲市小伊津町)からもアメエビ買い取りの誘いがありました



宮崎安貞著『農業全書』「農事図」
(国立国会図書館デジタルコレクション)

が、間に合っていたのか、そちらからは調達せず終わったようでした。商品作物の栽培が拡大する江戸時代中期以降、干鰯(ほしか)など金銭を払って購入する肥料、「金肥」が発達し、稲作にも欠かせないものとなりますが、この日記から平田地区の田畑経営にとって北浜地区の漁村が金肥の調達先の一つだったことが分かり、当時の海と里のつながりが垣間見える興味深い記録です。

地域に残された日記や手紙には、このように時をこえて、地元の人にこそ伝わる言葉や出来事がたくさん秘められています。史料を守り伝えることで、100年以上前の出雲弁や生活記録が地域の記憶を伝える歴史資産となるのです。

(春日 瞳)

★展示のご案内

▼春季企画展

3月5日(土)～5月30日(月)

「てんじんムラの歴史」

―大神遺跡と周辺の調査から―

▼ギャラリー展

好評開催中～3月7日(月)

「田儀櫻井家のたたら製鉄 その2」

国指定史跡 越堂たたら跡

●ギャラリートーク

1月23日(日)・2月20日(日)

※いずれも10時から

▼スポット展

2月2日(水)～5月30日(月)

「徹底解剖！常楽寺柿木田1号墳」

―神西湖南岸の

古墳文化をさぐる―

★講座のご案内

▼冬季企画展関連講演会

1月22日(土)14時～16時

「瀬戸内の弥生墓に供えられた土器」

―伊予(愛媛県)を中心に―

●講師 松村さを里氏

(公財) 愛媛県

埋蔵文化財センター

●受講料 無料

▼ギャラリー展関連講演会

2月23日(水・祝)14時～16時

「田儀櫻井家たたら経営に

携わる人々と物流」

●講師 鳥谷智文氏

(松江工業高等専門学校 教授)

●受講料 無料

▼文化財保護審議会委員講座

第1回

1月29日(土)14時～16時

「中世の出雲大社と仏教」

―新出の北島家文書を手がかりに―

●講師 井上寛司氏

(島根大学名誉教授)

第2回

2月12日(土)14時～16時

「菱根新田の開発と三木与兵衛」

―松江藩における村の成立過程―

●講師 多久田友秀氏

(島根県近世史研究会 会員)

第3回

2月27日(日)14時～16時

「堀尾吉晴とその一族の石塔」

●講師 西尾克己氏

(松江市史料調査課)

●受講料 各回300円

松江城部会長)

講座の申込について

定員50名 当日受付なし

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9～17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所

※講座当日は、マスク着用、手指消毒、体温測定にご協力ください。

★館長古來夢

2022年を迎えた。100年
ずつ遡って過去をのぞいてみよう。

1922年、ワシントン海軍軍縮

条約締結。が、欧州を再び戦火

が覆うのに20年とかならなかった。

1822年、半世紀にわたって将

軍職にあった11代將軍徳川家斉の

時代。この4年後、今市大念寺古

墳が発掘された。

1722年、日本では徳川吉宗

による享保の改革が進行していた。

1622年は、豊臣家滅亡から

7年。2代將軍徳川秀忠の治世は

安定の度を増していく。

1522年、室町幕府12代將軍

に11歳の足利義晴が就任。有力

武將の勢力争いに翻弄されながら

も30年近く地位を保った。

1422年、4代室町將軍足利

義持の時代。守護大名の調整に努

め安定した時代を築いた。

1322年、鎌倉將軍北条高時

と後醍醐天皇との関係はまだ良好

だが、2年後の正中の変以後、幕

府は滅亡へと転がり落ちていく。

1222年、前年の承久の乱に

より隠岐国へ流された後鳥羽上皇

は、この年の正月を島で迎えた。

1122年の翌年、在位25年の

鳥羽天皇は退位し、以後30年ちか
く上皇として院政を敷いた。上皇
に愛された美貌の女官玉藻前、実
は九尾の狐だった、との伝説も。

1022年、前年に焼亡した豊

前国宇佐八幡宮が再建遷宮され

た。

922年、安定した時代だった

が、この年は干ばつが襲った。

822年、このころ平安京の治

安と行政を担う検非違使を設置。

722年、平城宮の政府は田畑

開墾を進める法令を次々出した。

2年後には聖武天皇が即位する。

622年、最初の女性天皇推古

を補佐した聖德太子が亡くなった。

安定の年も不安定な年もあった。

今年はどうだろう。

(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2022年1月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始

